



当時の人々の営みと、福田町の歴史を知る。

倉敷市福田歴史民俗資料館が建っている場所は福田町役場の建っていた場所で、当時役場や会議室の様子が写真に残されています。

昭和61年に役場が解体され、昭和62年先人の方々が築いた当地域の変遷を後世に伝えるために建てられました。江戸時代は米の生産数が裕福さにつながっていたため新田開発が推し進められました。

倉敷市の平地は大半がその頃に干拓されたものです、その中でも福田町は高梁川が運んできた土砂が堆積し広大な湿地と干潟が形成されていました。

当館の展示資料は干拓地を開墾していった先人たちがどのような道具を使い、生活していたかを今に伝えています。

◆ 施設のおすすめ

倉敷市福田歴史民俗資料館は、倉敷市福田町の干拓地を中心とした歴史を物語る資料を展示収蔵しています。稲作に使用した農具や生活に欠かせないランプや囲炉裏に吊るすための自在鉤といった民具をはじめ、人を運ぶための駕籠や県下に数台しか無いと云われる発動機も所蔵されています。

当時の写真や書物、古地図を見ることができ当時の福田町の様子も知ることが出来ます。

いずれは収蔵物の一部を実際に使用できるようにし体験できる機会を作ることが出来ればと考えています。

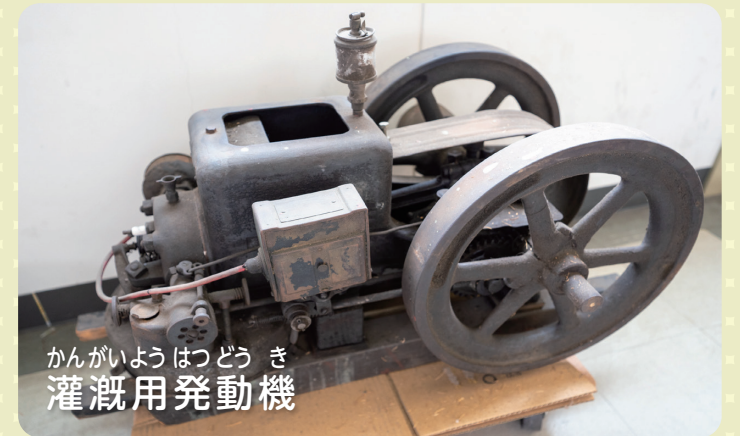
◆ 子どもたちへのメッセージ

福田町は先人たちが多大な労力と技術を用いて干拓を行うことで、新たに土地を作り発展させてきました。

今に至るまで人々と共に過ごしてきた道具たちを見ることで、田植えをはじめとする人々の営みと、福田町が歩んできた歴史を知るきっかけになってもらえればと思っています。



てんじしつ 展示室



かんがいようはつどう き 灌漑用発動機



かご 駕籠



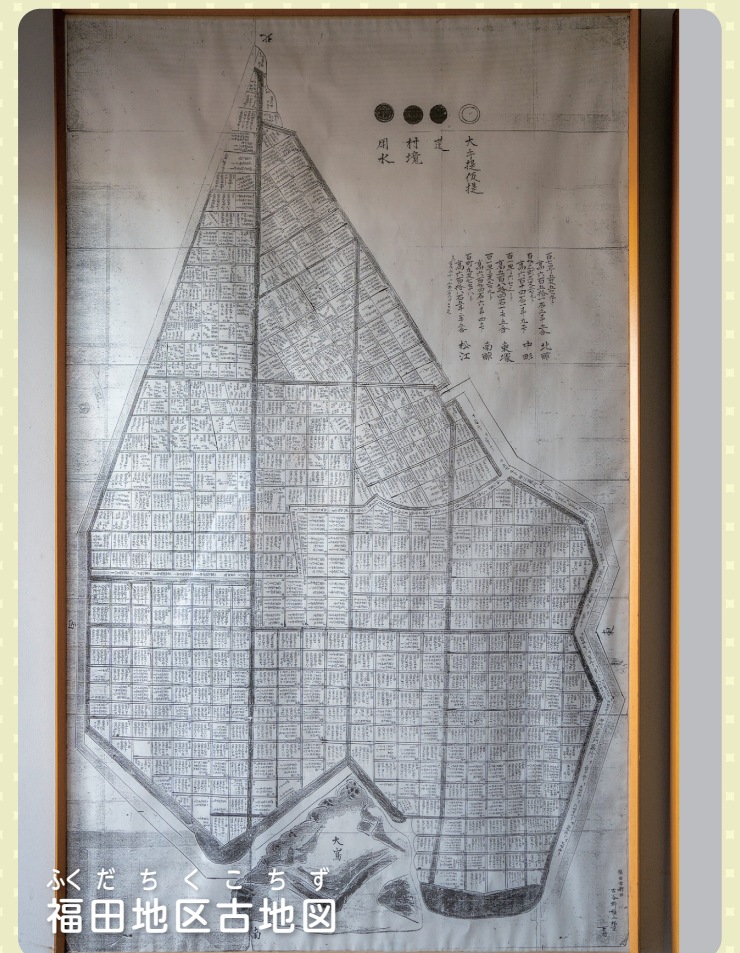
みんぐ みのかさ 民具：蓑笠など



ふるふた 古札や書物



やくばじだい 役場時代の写真



ふくだちくこちず 福田地区古地図